

親子で定置網漁を体験 —モンゴル村春まつり—

モンゴル村春まつり（鷹島町観光協会など主催）が3月31日、4月1日の2日間、鷹島モンゴル村を主会場に開催されました。

草もちつきや漁業を体験してもらおうと、昨年から開かれています。

体験には福岡や佐賀から、親子連れ約60人が参加。1日目はモンゴル村で、石臼を使ってヨモギの草もちつきを体験し、2日目には早朝から、阿翁浦港で定置網漁の体験や、とれたての魚を地元漁師と一緒に調理する体験をしました。

参加者は、草もちや漁師の朝食をおいしく味わっていました。



まちの話題



趣味を生かし二人展

今福町在住の田中久子^{ひさこ}さんと田中孝子^{たかこ}さんの「ビーズアクセサリーとミニ着物二人展」が3月31日から4月2日まで、きらきら21で開かれました。

趣味を生かし、もの作りの楽しさをみんなに知ってもらおうと開いたものです。

会場には、田中孝子さんのビーズアクセサリー約50点と、田中久子さんが、かすりやもんぺ、端切れを使って製作したミニ着物や手まり、ぞうりなど約200点を展示。市内外から約300人が訪れ、二人の手作りの作品に熱心に見入っていました。

二人は「たくさんの方に見てもらい、『心にゆとりができた』などと声をかけていただき、二人展を開いてよかったです」と話していました。



志佐川に稚アユを放流

稚アユの放流が4月13日、志佐川で行われました。志佐川漁協組合員と市職員らが大分県湯布院町から運ばれた体長7センチの稚アユ約5万尾を、志佐川の4カ所で放流しました。

今年は上志佐保育園のきりん組（年長）8人や上志佐小学校の3、4年生29人の参加もあり、「大きくなって帰ってきてね」と言いながら稚魚を放流していました。